

unlimited ~無限大~

1年B組 学級通信 NO.66

ネットトラブル防止講演会

10月17日(金)の新聞に小学校ではいじめが過去最多になっているというデータが文部科学省から公表されました。いじめの内容は「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。」が64.4%、「パソコンや携帯電話などで誹謗中傷や嫌なことをされる。」は過去最多だったそうです。このいじめの内容につながるようなことをみなさんはしていませんか？加害者はからかっただけと置いていても、被害者からするといじめられていると捉えられます。近年でいじめについていろいろ議論されています。トラブルにならないように、それをしたら相手がどのような気持ちになるのか先のことを考えられると良いですね。

同日に東中学校では5、6限にネットトラブル防止講演会がありました。講演会では、ゲーム依存症になった人が、ゲーム内で人やモンスターを殺して興奮しているような衝撃的な映像が流れました。金属バットなどを野球の道具としてではなく、武器と持っている人もいるそうです。毎日のニュースでも人を殺める事件が起きています。

発端はささいなことから始まることが多いのかもしれない。教室でけがをしている生徒がいて、加害者の話を聞くと「悪口を言われたから手を出した。」と答えました。悪口を言うことから始まり、けがをするような事態になることが十分にあり得ます。特に首から上を殴るようなことをすると命に関わりません。そのようなことは絶対にやめましょう！

また、中学生では携帯電話やスマートフォンのトラブルが多発しています。東中学校でも例外ではないと思います。ルールを保護者と決めるなどしてトラブルを未然に防げるようにしていきましょう。

小学校いじめ過去最多

文科省調査 暴力行為も増加

二〇一三年度に全国の小学校で把握されたいじめは、前年度より千四百二十一件増え、過去最多の十一万八千八百五件だったこと

文科省調査によると、二〇一三年度の調査結果で分かった。小学校では暴力行為も増えており、文科省の担当者は「問題行動の低年齢化や生徒指導体制に不十分な面もある」と分析した。いじめは小中高など全体で十八万五千八百六十六件。一年の大津市の中男子自殺事件後に調査が行われ、過去最多だった前年度を約一万二千件下回った。中学校は八千三百八十六件減の五万五千二百四十八件、高校は五千二百三十五件減の一万二千三十九件。都道府県別では、愛知

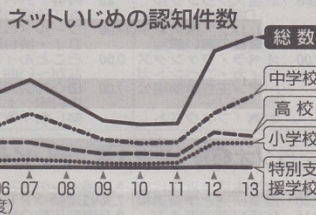
一件。都道府県別では、愛知一件、千七百七十七件、岐阜二百五十五件だった。いじめの内容は、複数回答で「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多い。一〇・九七五五十六件(64・4%)。「パソコンや携帯電話などで誹謗中傷や嫌なことをされる」は過去最多の八千七百八十七件(4・7%)だった。自殺した小中高生は、前年度比四十五人増の二百四十八人。うち高校生が百七十七人。全国のいじめが背景とされる自殺は中学生九人だった。不登校は小学生二万四千七百七十五人、中学生九万五千九百九十六人で、初めて二万四千四百四十二人、高校生五件を超えた。

「ネットいじめ」で 中学生相談相次ぐ

文科省によるいじめに関する調査結果で、パソコンや携帯電話による「ネットいじめ」が過去最高の八千七百八十七件に上った。特に無料通信アプリ「LINE(ライン)」などSNS(会員制交流サイト)でのいじめが深刻化している。 「いじめ」と何度も書かれて不登校になった。「自分の書き込みを一言に無視された」。全国webカウ

文科省によるいじめに関する調査結果で、パソコンや携帯電話による「ネットいじめ」が過去最高の八千七百八十七件に上った。特に無料通信アプリ「LINE(ライン)」などSNS(会員制交流サイト)でのいじめが深刻化している。

文科省の調査結果によると「パソコンや携帯電話などで誹謗中傷や嫌なことをされた」件数は、前年度を九百三十二件上回った。内訳は小学校千七百一十一件、中学校四千八百二十五件、高校千七百七十六件、特別支援学校六十五件。文科省は本年度、都道府県などによるインターネット



セリング協議会(東京)には中高生からの相談が相次いでいる。文科省の調査結果によると「パソコンや携帯電話などで誹謗中傷や嫌なことをされた」件数は、前年度を九百三十二件上回った。内訳は小学校千七百一十一件、中学校四千八百二十五件、高校千七百七十六件、特別支援学校六十五件。文科省は本年度、都道府県などによるインターネット

ト上のパトロールへの予算補助を始めた。だが、不特定多数に発信するのはなく、個人間でありとりずるLINEなどは対象外。文科省の担当者は「対策は検討中」とする。

協議会の安川雅史理事長は「文字のやりとりだけでは誤解が生まれやすい。直接会話を大切さを家庭や

学校で教えてほしい」とする。同時に、「子どもたちが話し合っただけで、自主的にルールを決めるのが望ましい」と話す。

一方、各地の小中学校では今年、児童生徒に夜間、携帯電話などを使わせないよう家庭に要請する動きが広がっている。先駆けの愛知県刈谷市で旗振り役となった雁が音中学校の大橋普支校長は「LINEでのいじめは半減し、悩みを相談する生徒も減った」という。

アプリを運営する「LINE」(東京)は「子どもたちの啓発教育を目的とした教材を大学と共同開発し、八月から小中学校に無料で提供を始めた。学校から申し出があった場合、専門チームが講演なども行っている」としている。